

4 技能重視の英語教育への転換～新カリキュラム 1 期生の 2 年半の経過報告

A Shift to Four-skills-focused English Education— A Longitudinal Study of a New Curriculum

松田早恵、鳥居祐介、後藤一章（摂南大学）

摂南大学外国語学部では、2015 年度より「4 技能をバランスよく伸ばす」ことを目標とした新カリキュラムを導入している。1 年次にオリジナルテキストを用いた発話重視の授業を行うほか、専任教員が各必修授業の内容をコーディネートし、これまで連携の取れていなかった科目間の横の繋がりも強化した。新カリキュラムの下では、1 年次後期より英語プロフェッショナル（以下、英プロ）コースと国際キャリア（以下、国キャリ）コースに分かれるが、本発表では主に英プロ生に焦点を当てて経過報告を行う。英プロは 2 年次の後期を含む最低半年間の海外留学を必須とするコースであり、配属のための英語力要件は TOEIC400 点以上または英検 2 級である。英プロ 2 年次の前期では、授業時間外に毎日 25 分×3 か月のスカイプ英会話レッスン（レアジョブ社）を課し、発話能力と対話能力の育成を目指した。2016 年度後期現在、彼らは留学中であり、2017 年 4 月より新カリキュラムの 3 年次科目を履修することになる。3 年次科目では、原則として英語のみで、コンテンツ・ベースの授業を行うことを予定している。英プロ生は、1 年次前期、後期、2 年次前期の 3 回、4 技能+語彙と文法の能力が測れるオンラインテスト Progress（ピアソン社）を受験している。また、2 年次前期の開始時と終了時には、OPIc (Oral Proficiency Interview-Computer) を受験している。2016 年度春学期前後に実施した OPIc (Oral Proficiency Interview-Computer) では、28 人中 15 人がレベルを 1 つ上げ、2 人がレベルを 2 つ上げた。本報告では、これらのテストの結果分析と、現場で学生に接している教員の観察をもとに、留学を挟んだ 2 年半の新カリキュラムでの指導によって英プロ生の英語力レベルがどのように推移したか、今後の課題は何かを検証したい。

Bio Data

松田早恵

Sae Matsuda

sae@ilc.setsunan.ac.jp

Sae Matsuda is a professor of the Faculty of Foreign Studies at Setsunan University. Her research interests include extensive reading, learners' individual differences, and diary study. She is also interested in employing literature and films in the classroom.

鳥居祐介

Yusuke Torii

torii@ilc.setsunan.ac.jp

Yusuke Torii is an associate professor of the Faculty of Foreign Studies at Setsunan University. His research interests include American Studies, music and race relations in the United States, U.S.-Japan relations, and teaching English through project-based learning.

後藤一章

Kazuaki Goto

goto@ilc.setsunan.ac.jp

Kazuaki Goto is currently an associate professor of the Faculty of Foreign Studies at Setsunan University. His research interests include phraseology, lexicography, corpus linguistics, and natural language processing.